



見 る 知 る

じぶんの「まち」を

# ミルシル

第5号

令和4年度春



## 仲良く 元気で 楽しく ここで暮らして いきたい

-プロフィール-

◀ 篠崎 二千子 (しのぎき ふちこ) さん。  
1940年生まれ。趣味は色鉛筆画。

篠崎 俊夫 (しのぎき としお) さん ▶  
1936年生まれ。趣味はひょうたん作り。



今回お話を伺うのは、宝積寺にお住いの篠崎二千子さん。夫の俊夫さんとともに「地域の縁側」のような庭造りをしています。

### 昔はどこの家にも縁側があった

私も夫も生まれは農家ですけど、昔はどこの家にも縁側があって、私が子どもの頃は、そこに祖父母や近所のお年寄りがいつも集まっていたのをよく覚えています。でも、現代の家には縁側ってないでしょう？それで、近所の人立ち寄りできるような、ちょっとおしゃべりしたりお茶を飲んだりできるような、縁側みたいな空間をつくりたいと思って庭造りをしています。

木々の手入れは夫が、草花の世話は私がします。今はちょうど福寿草が咲いて、クロッカスの芽がでてきたところ。花々が一番賑やかになるのは5月頃でしょうか。庭の中までは入らなくても、通りすがりに花を眺めたり、写真を撮ったりする人もいますよ。花を見たら「綺麗だな」って思うのって、人間みんな一緒なんだと感じます。

庭に出している椅子やテーブルは、夫の手作りなんです。ここで夫と休憩したり、うちに寄ってきた人とお茶を飲んだりするんです。ここが我が家の縁側ですね。



### 昔ながらの生活を次の世代に伝えたい

うちの庭にね、かまどがあるんですよ。遊びに来た孫たちと、正月にはセリを摘んで七草粥を作り、春にはヨモギを摘んで草餅を作ります。孫たちにも薪の組み方や火の付け方を教えて。季節の行事をきちんとやったり昔からの道具を使ったりすることを、大切にしたいなと思うんです。孫に伝えることで、どこまで受け取ってもらえるかはわかりませんが、私が祖父母、両親から貰ったものを、次の世代に少しでも残していけたら良いなと思っています。

### 人が好きだから、色々な場に出ていく

私も夫も、いろんな所に行っている活動をしています。お囃子会とか、昔遊び塾とか、運動教室とか、地域づくりのグループとか、それはもう、本当に色々です。そうやって人の中にいるのが、楽しいんですよね。だって、家にこもっていたら寂しいじゃないですか(笑)。人恋しくて、いろんな活動に参加するんです。

私たち夫婦は生まれは高根沢ではないけれど、ここで50年以上暮らしてきて、近所の方や色々な活動で一緒にいるみなさんと仲良く、元気で、楽しく過ごせていることが本当にありがたいことだと感じています。

## 目指せ 助けられ上手さん

日本人の6割は

「助けて」と言えない

人は誰しも、社会の中でヒトやモノやサービスとつながることで暮らしを維持しています。あなたは困りごとがある時、誰に相談しますか？一番多いのは、やはり家族でしょうか。では、家族以外にあなたが助けを求められる人はいますか？

「たすけあい」に関する意識調査<sup>注1</sup>では、「知り合いに助けを求めることができる」に「そう思う」と答えた人は、わずかに6.8%。「ややそう思う」が29.9%。「あまりそう思わない」が43.6%。「そう思わない」が19.7%でした。実に、63.3%の人が、相手が知り合いでもなかなか「助けて」と言えないことがわかりました。

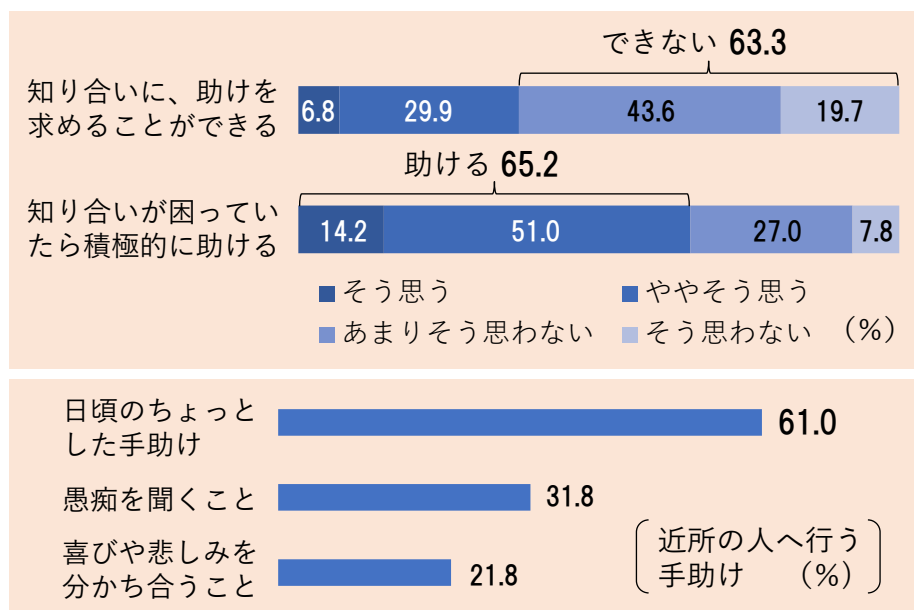
一方で「助けて」と

思っている人も6割

なぜ私たちは、人に助けを求めることを躊躇してしまうのでしょうか。他人に迷惑をかけたくないからでしょうか？それとも、困っていることを知られたくないから？それとも、助けてくれるかどうか不安だから？

ところで、もし「助けて」と言えたら、助けてくれる人はどのくらいいるでしょうか。前出の調査で「知り合いが困っていたら積極的に助ける」に「そう思う」

と答えた人は、14.2%。「ややそう思う」が51.0%。「あまりそう思わない」が27.0%。「そう思わない」が7.8%でした。つまり、65.2%の人は、自分の知り合いが困っていたら助けてあげたいと思っているのです。また、生活と支え合いに関する調査<sup>注2</sup>でも、「日頃のちょっとした手助け」について、相手が「近所の人」の場合に手助けすると回答した人は61.0%という結果が出ています。



これほど多くの人が、実は「助けて」と思っているということがわかれば、あなたも「助けて」が言いやすくなりませんか？

「助けられる」ことも

立派な福祉活動

住民福祉総合研究所<sup>注3</sup>の木原孝久所長が、「助けられ上手」という考え方を提案しています。「人に助けを求めることは大事なことです。堂々と助けられるべきだ」というのです。これは、福祉というものが「助ける」側と「助けられる」側の共同作業であるという考えからきています。相手は私を助けるための努力をする、そして私は上手に助けてもらう工夫をする、相手が助けやすいように協力する。この両者の努力があつてはじめて、福祉はうまくいくと木原さんは言います。助けられ上手さんになるための工夫を5つ挙げてみました。あなたもぜひ挑戦してみてください。

助けられ上手さん 5つの工夫

- 1 困りごとを隠さない
- 2 「助けて」と言う
- 3 どのように助けてほしいか伝える
- 4 自分も「助ける」活動をする
- 5 元気なうちに地域に貢献しておく

注1 「たすけあい」に関する意識調査（2020年）

注2 こくみん共済COOP（全労災）

注3 国立社会保障・人口問題研究所

住民福祉総合研究所ホームページ

<http://juninyu.web.fc2.com/>

